



KITEMITA VOL.1

生産者さんに



軽トラでススキをかき分け
急な坂道をのぼると、
いきなり開ける段々畑。

返礼品：清水果樹園のたんかん

出荷時期：2～4月

おじいさんのたんかん農園を継ぎ、拡大してきました。現在はマンゴー農園も営み、多様な果物を育てています。

Q1.生産するうえでのこだわりを教えてください。

たんかんは暖かい地域でのみ栽培されるため、流通量が少なく希少な柑橘類の一種です。オレンジのような芳醇な香りと酸味が特徴で、果肉はやわらかくも一粒一粒がしっかりしています。

3か所ある畑の中でも阿三（あさん）集落にある段々畑は、山の上のほうにあります。冷え込む気候と日が当たって暖かい気候とが両存し、ミカンの栽培にとってもいい環境です。約40年、おじいさんの時代から植えられているたんかんの木は、他の木に比べてとても立派に育っていますよ。

Q2.大変なことや、課題はありますか。

4月から8月くらいまでは毎日、ゴマダラカミキリムシという、たんかんの根を食べてしまう虫の駆除をします。薬剤は使わず手づかみで行いますが、結構大きな虫でとても気持ち悪いです。

夏にマンゴー畑の手入れをした後毎日やるのは、とても大変です。でも、この畑は海が臨めるので、ここで作業するのは気持ちいいんです。

Q3.今後、挑戦したいことはなんですか。

ミカンの木1000本を目標にしています。現在は、たんかんをはじめとして、伊予柑、ポンカン、サワーポメロなどあわせて700本ほどを育てているんですよ。

今年からは津之輝という品種を育て始めました。春にはこれを追加で50本植える予定なので、また種類が増えて作業が楽しくなりそうです。



お話して下さった、一郎さんと洋子さん。



阿三集落のミカン畑。



甘くてみずみずしいたんかん。